

## 【 花の期 2月 】

京都市立下京中学校  
校長 安居 昌行

### 「花が咲き 鳥が鳴く 春を待つ 」

元旦からは暖冬、大寒は猛烈な寒波と目まぐるしい気象の変化があり、体調管理が難しい1月となりました。また、インフルエンザも引き続き全国的に流行しています。手洗いうがい、適切な防寒など健康面でも細心の注意を払うことが大切な時期です。

そして早2月、3年生は試験や面談など自分の夢や希望に向かって全力で駆け抜ける時となりました。また、1・2年生も一年間のまとめである学年末テストが後半に控えているとてもとても大切な月でもあります。これまで努力してきた成果が問われます。同時に、暖かな春を迎えるための準備をしっかりと整えることが大切な時期でもあります。極寒のこの季節にも“花”は春を迎える準備をしています。湖や池、公園で生活している渡り鳥たちも春には北の故郷へ帰るための支度をしています。私たちも自分の思いをかなえる花を咲かすために、じっくりと「学習」に取り組み、日常の「生活」を整えていくことが大切です。

このような2月について、昭和初期の詩人である立原道造は次のような詩を残しています。「今は二月 たったそれだけ あたりはもう春がきこえてゐる だけれども たったそれだけ 昔むかしの約束はもうのこらない・・・さう！花は またひらくであらう さうして鳥は かはらず啼いて 人々は春のなかに 笑みかはすであらう・・・(浅き春に寄せて・抜粋)」(『立原道造詩集』より・旧仮名づかいのまま)

春はそこまで近づいています。二月はあっという間に通り過ぎていきます。卒業や進級を前にして、力を出し切るためには皆さん自身の努力が必要です。家族や先生たちは、環境を整え応援しています。全力で走り抜けていってください。必ず春は訪れます。皆さんの全員の笑顔を待っています。

結びに文豪夏目漱石の言葉「今のうちの一挙一動は、みな将来、実となって出てくる。決してゆるがせにしてはいかぬ。人間だいたいの価値は、十八、九、二十くらいの間に来る。つつしみたまえ、励みたまえ」

(『漱石「こころ」の言葉』矢島裕紀彦編より)



〈梅小路公園にて 冬鳥のアリスイ〉